第2911回／9月19日 例会報告

●幹事報告　平田修一幹事

幹事報告をご覧ください。
●明日、12:30より浦和ロイヤルパインズにて浦和RCへのMake-Upがあります。同じく18:00より浦和ワシントンホテル1Fのティナラウンジにて新会員歓迎会があります。
●9月26日13:40よりビックシェフにて写真同好会があります。
●10月10日の13:50～14:50で、メディアセブンプレゼンテーションスタジオにて、「もっと知ろうSDGs」合同委員会&セミナーがあります。

●出席報告　丸山恵美子委員

本日分	9月19日
会員数	101名
出席	49名
出席率	54.50%

●ニコニコ資金報告　伊藤 健委員

前日までの累計	496,843円
本日の計(37件)	50,000円
本日までの累計	546,843円

●卓話に際して
国枝様、本日はありがとうございます。　渡部行光会長
国枝秀美様、今日はありがとうございます。映画『車線変更－キューポラを見上げて』のお話、楽しみにしています。
平田修一幹事
国枝さん、池田さんようこそ。卓話、よろしくお願いいたします。　寺田美津司会員
池田さん良くいらっしゃいました。川口ロータリーに入って下さいね。　本庄久子会員
国枝さん、ようこそ！増井さんご入会おめでとう。
齋藤幸雄会員
卓話楽しみにしています。　榎本英昭会員
以下、同様の趣旨で。
小川長四郎会員、柳澤昭子会員、朝日恵子会員、鈴木慎一会員、増田泰久会員、松井実会員
●入会式に際して
本日入会させていただきます。よろしくお願い申し上げます。　増井真也会員
増井さん、入会おめでとうございます。ロータリーを楽しんでください。　渡部行光会長
増井真也さん、入会おめでとうございます。大活躍、期待しています。　平田修一幹事
増井真也さん入会おめでとう。　江連俊裕会員
増井さん、入会おめでとうございます。　新井秀雄会員
増井真也さん、ようこそ。　寺田美津司会員
増井真也さん、入会おめでとうございます。
増井千恵子会員
増井真也さん、川口RC入会、おめでとうございます。御活躍を期待しております。　竹ノ谷裕子会員
増井さん、入会おめでとうございます。一緒に楽しみましょう！　砂沢学賦会員
増井さん、川口RC入会おめでとうございます。楽しいロータリーライフを、宜しくお願いします。　佐藤進会員
ようこそ川口ロータリークラブへ。活躍を期待しています！
小倉克徳会員
増井真也さん、入会おめでとうございます。杉山直さんに万一のことがあったら、次年度幹事お願いします。
多田竜一会員
以下、同様の趣旨で。
北村透会員、安達善一会員、小川長四郎会員、下舘貴子会員
●結婚記念祝に際して
結婚記念祝ありがとうございます。47年目となりました。来年も元気で迎えることが出来ますように！
渡辺成子会員
おめでとうございます。　中村将之会員
結婚祝おめでとうございます。　丸山恵美子会員
●その他
SDGsを、増井さんにいただきました。「賛持があればニコニコへ入れてください」との事で入れました。
江連俊裕会員
父からの相続申告納税がおわりました。今日は、お墓そうじをしてきました。父のことを思い出しながら。
早船雅文会員
今日朝早く、佐野さんと武南高校に行って参りました。高校との話は完了して来ました。　森絹子会員
9月15日のランニングお疲れ様でした。10月は20日日曜日、18時より、駒込方面へ向かう予定です。ご参加お待ちしております。　白井靖会員
先日は母の葬儀に際し、皆様には大変お世話になりました。ご厚情に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
永瀬秀樹会員
FM川口の僕の番組に、徳兵衛さんに続き、岡村前会長にご出演して頂きました。普段の睦美さんとはまったく違う側面が聞けました。ぜひ聞いてください。毎週土日の夜11時からです。　篠田元一会員

●本日の行事

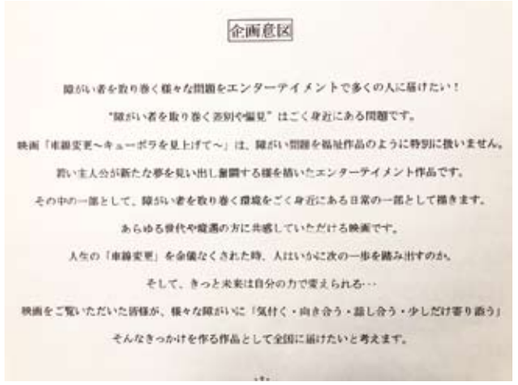
●結婚記念祝

左から
渡部行光会長、
渡辺成子会員

●表彰：RLI パート 1 終了証

早船雅文会員、多田竜一会員、渡部行光会長、
杉山直会員

●卓話：プロデューサー　国枝秀美 様



企画意図

障がい者を取り巻く様々な問題をエンターテイメントで多くの人に届けたい！

“障がい者を取り巻く差別や偏見”はごく身近にある問題です。

映画「車線変更～キューポラを見上げて～」は、障がい問題を福祉作品のように特別に扱いません。

若い主人公が新たな夢を見い出し奮闘する様を描いたエンターテイメント作品です。

その中の一部として、障がい者を取り巻く環境をごく身近にある日常の一部として描きます。

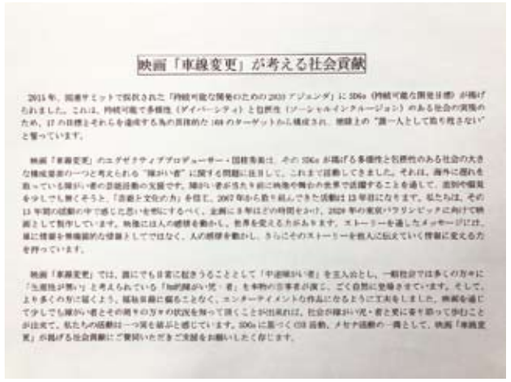
あらゆる世代や境遇の方に共感していただける映画です。

人生の「車線変更」を余儀なくされた時、人はいかに次の一歩を踏み出すのか。

そして、きっと未来は自分の力で変えられる…

映画をご覧いただいた皆様が、様々な障がいに「気付く・向き合う・話し合う・少しだけ寄り添う」

そんなきっかけを作る作品として全国に届けたいと考えます。

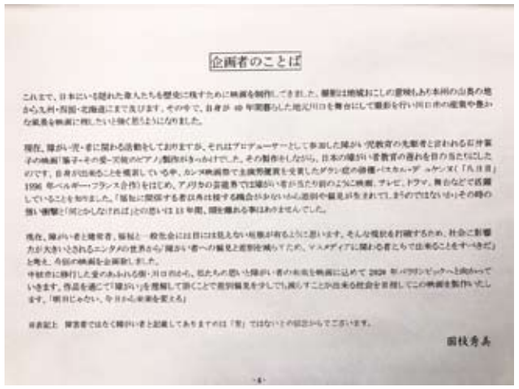


映画「車線変更」が考える社会貢献

2015年、国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に SDGs（持続可能な開発目標）が掲げられました。これは、持続可能で多様性（ダイバーシティ）と包摂性（ソーシャルインクルージョン）のある社会の実現のため、17の目標とそれらを達成する為の具体的な169のターゲットから構成され、地球上の“誰一人として取り残さない”と誓っています。

映画「車線変更」のエグゼクティブプロデューサー・国枝秀美は、その SDGs が掲げる多様性と包摂性のある社会の大きな機成要素の一つと考えられる“障がい者”に関する問題に注目して、これまで活動してきました。それは、海外に遅れを取っている障がい者の芸能活動の支援です。障がい者が当たり前に映像や舞台の世界で活躍することを通して、差別や偏見を少しでも無くそうと、「芸術と文化の力」を信じて、2007年から取り組んできた活動は13年目になります。私たちは、その13年間の活動の中で感じた思いを形にするべく、企画に3年以上の時間をかけ、2020年の東京パラリンピックに向けて映画として制作しています。映画には人の感情を動かし、世界を変えるちからがあります。ストーリーを通したメッセージには、単に情報を情報提供の情報としてではなく、人の感情を動かし、さらにそのストーリーを他人に伝えていく情報に変える力を秘っています。

映画「車線変更」では、誰にでも日常に起きうることとして「中途障がい者」を主人公とし、一般社会では多くの方々に「生理性が無い」と考えられている「bad障がい・児・者」を本物の当事者が演じ、ごく自然に登場させています。そして、より多くの方に届くよう、福祉車輌に偏ることなく、エンターテイメントの作品になるように工夫をしました。映画を通じて少しでも障がい者とその周りの方々の状況を知って頂くことが出来れば、社会が障がい児・者と笑に寄り添って歩むことが出来て、私たちの活動は一つ実を結ぶと感じています。SDGs に基づく 0目 目的、メセナ活動の一環として、映画「車線変更」が掲げる社会貢献にご賛同いただき ご支援をお願いいたしたく存じます。



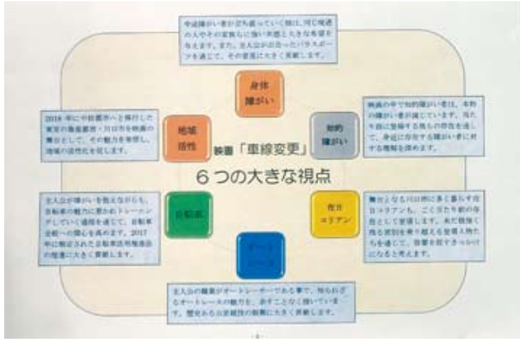
企画者のことば

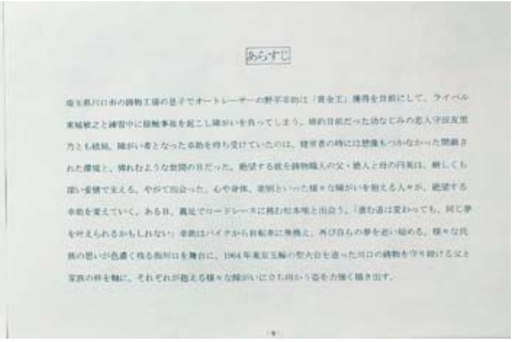
これまで、日本にいる隠れた達人たちを歴史に残すために映画を制作してきました。舞台は地域おこしの意味もあり本州の山奥の地から九州・四国・北海道にまで及びます。その中で、日本が 40 年間暮らした地元川口の産業や豊かな風景を映画に残したいと強く思うようになりました。

現在、障がい児・者に関する活動をしておりますが、それはプロデューサーとして参加した障がい児教育の先駆者と言われる石井筆子の映画「筆子・その愛・宗旨のピアノ」製作がきっかけでした。その製作をしながら、日本の障がい者教育の遅れを目の当たりにしたのです。日本が出来ることを模索している中、カンヌ映画祭で主演男優賞を受賞したダラン役の俳優パスカル・デュケンヌ（「九日目」1996 年ベルギー・フランス合作）をはじめ、アメリカの芸能界では障がい者が当たり前のように映画、テレビ、ドラマ、舞台などで活躍していることを知りました。「福祉に関係する者以外は接する機会がないから差別や偏見がおきてしまうのではないか」との時の強い衝撃が何かしなければ」との思いは 13 年間、頭を離れる事はありませんでした。

現在、障がい者と健常者、福祉と一般社会には目には見えない壁が有るように思います。そんな現状を打破するため、社会に影響力が大きいとされるエンタメの世界から「障がい者への偏見と差別を減らすため、マスメディアに関わる者たちで出来ることをすべきだ」と考え、今回の映画を企画致しました。

中途障がい者が立ち直っていく様に、同じ境遇のトレーナーとの家族たちに強い共感とともに希望を与えます。また、主人公が出合ったパラスポーツを通じて、その家族にたくさん笑顔になります。





あらすじ

埼玉県川口市の鋳物工場の息子でオートレーサーの野平幸助は「黄金王」獲得を目前にして、ライバル東城敏之と練習中に接触事故を起こし障がいを負ってしまう。婚約目前だった幼なじみの恋人字佐友里乃とも結婚、障がい者となった幸助を待ち受けていたのは、絶望者の時には想像もつかなかった問題きわまた環境と、憐れむような世間の目だった。絶望する彼を鋳物職人の父・他人と母の内実は、厳しくも深い愛情で支える。やがて出会った、心や身体、差別といった様々な障がいを抱える人々が、絶望する幸助を変えていく。ある日、高見でロードレースに挑む松本明と出会う。「速さ速さ変わっても、同じ夢を叶えられるかもしれない」幸助はバイクから自転車に乗換え、再び自らの夢を追い始める。様々な民族の想いが色濃く残る荒川口を舞台に、1964年東京五輪の聖火台を造った川口の鋳物を守り続ける父と家族の絆を軸に、それぞれが抱える様々な障がいに立ち向かう姿を力強く描き出す。